

「探究の単元」(UOI) プランナー

(初等教育)

概要

学年／年次：	5学年	協働指導チーム：	A, B, C, 音楽専科、図書司書
日付：	4月～6月	スケジュール：（調査の継続、繰り返し取り扱う、個別の開始時期と終了時期、他と並行して行う調査など）	個別の開始時期と終了時期

教科の枠をこえたテーマ (教科の枠をこえたテーマをここに記入します)

Who We Are 私たちは誰なのか

中心的アイデア

それぞれの価値観の理解が私たちの自立を助ける。

探究の流れ

1. 自分やみんなのこと (Form)
2. さまざまな価値観 (Perspective)
3. 自分と相手のためにできること (Responsibility)

「特定概念」

Form, Perspective, Responsibility

「概念」

自己・他己理解、価値観、自立

「IBの学習者像」の人物像

Communicator, Reflective, Open-minded

「学習のアプローチ」

Communication, Self-management

行動

良いところ紹介週間、お手伝い強化キャンペーン、将来の夢作文発表会

プロンプト：概要

教科の枠をこえたテーマ

このUOIでは、教科の枠をこえたテーマのどの部分に重点を置くか。

中心的アイデア

中心的アイデアは探究の足がかりとなるか。また、教科の枠をこえたテーマに対する児童の概念的理解の助けとなるか。

探究の流れ

探究の流れに役立つような教師による問いや刺激材料にはどのようなものがあるか。

探究の流れは次の要件を満たしているか：

- 中心的アイデアが明確であり、かつその理解を深められるものになっている。
- 探究の範囲がはっきり定められており、かつ学習と指導に重点を置いて取り組めるようになっている。

「重要概念」

「重要概念」は、探究の方向性を明確にするとともに、さまざまな教科をまたぎ、行き来し、融合する形でそれらを結びつけるための手がかりを与えるものになっているか。

「関連概念」

「関連概念」は、特定の教科における概念的理解のための視点を与えるものになっているか。

「IBの学習者像」の人物像

「IBの学習者像」を身につけ、それを発揮し、さらに高めるための機会にはどのようなものがあるか。

「学習のアプローチ」

児童が「学習のアプローチ」を習得し、それを発揮するための実際的な機会にはどのようなものがあるか。

行動

これまでの学習内容を土台にして、考えられる児童主導の行動を後押しするための機会にはどのようなものがあるか。

振り返りと計画

最初の振り返り

5年生に「自立」について考えさせるのは、良い機会となるはずだ。しかし、自立に焦点を合わせるあまりに、教師主導の授業にならないように気を付けなければならないだろう。また、価値観についても児童なりの考えが構築できるように、意識的に協働の時間を作っていくことが大事になってくる。

『集めよう、良いところ』で自分の価値観を出させ、『データにかくれた事実にせまろう』でまとめられるように授業を展開していきたい。

自己・他己理解、価値観においては、『おにぎり石の伝説』や『わたしたちの国土』を用いて、文学的アプローチ、地学的アプローチで多角的に見ていきたい。中心的アイデアについては、『自立を助ける』という文言で良いのか、来年度に向けて検討していかなければならない。

これまでの学習内容

1、2年生時には生活科において、自分を振り返る活動を行っている。その後も、毎年学期ごとに「なりたい自分」をイメージし、目標を立てている。5学年でも同様に目標を立てているため、今回の導入ではより価値観を聞くことができるようなワークシートを活用したい。

つながり：教科の枠をこえた学習とのつながりとこれまでの学習とのつながり

国語：『集めよう、よいところ』『おにぎり石の伝説』『知りたいことを聞き出そう』※新編 新しい国語 五（東京書籍, 2024）

社会：『わたしたちの国土』※新編 新しい社会5上（東京書籍, 2024）

理科：『生命のつながり①～④』※新版 たのしい理科5年（大日本図書, 2024）

算数：『データにかくれた事実にせまろう』『割合をグラフに表して調べよう』※みんなと学ぶ 小学校 算数5年上（学校図書, 2024）

学習目標と成功規準

Know

・インタビューの仕方が分かる。・住んでいる土地について分かる。・どのように人間が生まれるか知っている。

Do

・インタビューをして知りたいことを聞き出すことができる。・集めた情報をグラフにまとめることができる。・相手に分かりやすく伝えることができる。・自分のことについて振り返ることができる。

Understand

・人との関わりと価値観のつながりについて理解している。・価値観の理解が異文化理解につながることを理解している。・自立を自分の言葉で説明できる。

教師による問い

・自分のことを理解できているかな？・どんな価値観があるのかな？・人のために何かしていることはあるかな？

児童による問い

・自分が大切にしていることって何だろう？・相手にされてうれしいこと・嫌なことって何だろう？・誰が支えてくれているのかな？・自立ってどんな状態かな？

プロンプト：振り返りと計画

最初の振り返り

最初の振り返りは、このUOIの学習と指導の全体にどう役立てることができるか。

これまでの学習内容

児童の習得済みの知識、概念的理解、およびスキルをどのように評価するか。

これまでの学習のデータやエビデンスを計画にどう役立てるか。

児童の言語的背景を計画にどう取り入れるか。

つながり：教科の枠をこえた学習とのつながりとこれまでの学習とのつながり

探究プログラム（POI：programme of inquiry）の中、およびそれ以外におけるこれまでの学習ならびに今後の学習とのつながり

UOIの中での学習やそれ以外での学習とはどのようなつながりがあるか。

児童が概念的理解を深めることで、さまざまな教科をまたぎ、行き来し、融合した学習を転移できるようにするための機会にはどのようなものがあるか。

学習を目的あるものにし、かつ地域社会およびグローバルでの課題や機会に結びつくようにするにはどうすればよいか。

学習目標と成功規準

児童には、何を知り、何を理解し、何ができるようになることを期待するか。教師と児童が一緒になって、学習目標と成功規準を定めるにはどうすればよいか。

教師による問い

探究の流れに役立つような教師による問いや刺激材料にはどのようなものがあるか。

児童による問い

探究の流れに役立つような児童による問い、および児童の習得済みの知識、現時点での考え、経験、関心にはどのようなものがあるか。

設計と実践

UOI／教科に特化した探究（POIの中、もしくはそれ以外で取り組むもの）

教科の枠をこえたテーマ／中心的アイデア：	Who We Are 私たちは誰なのか / それぞれの価値観の理解が私たちの自立を助ける。		
協働指導チーム：	A, B, C, 音楽専科、図書司書	学年／年次：5学年	日付: 4月～6月



興味をかき立てる学習体験を設計する

◎Tuning In -

- 自分の価値観について考える（ワークシート：趣味・好きな食べ物・大事な物・好きな言葉）。
- 友達とワークシートを交流し、意見交流する。意見を基に再度ワークシートを書く。
- グループでワークシートを交流し、ベン図にまとめる。
- 価値観に関するディベートを行う（備蓄米、少子化、温暖化、輸出入など）。決められた立場について調べることを通して、自分の中の価値観に触れられるようにしたい。

◎Finding Out -

- どのようなところに考え方の違いが出るのか、調査するための質問を考える。
- インタビューの仕方を確認する（教科書『知りたいことを聞き出そう』を使う）。
- グループでインタビューの対象を決め、インタビューしに行く。（外部の人たちには週末の宿題としてインタビュー課題を出す）

◎Sorting Out -

- 集めた情報を持ち寄り、棒グラフにまとめる。1組→帯グラフ 2組→円グラフ
- まとめたグラフを分析し、どういうところに価値観の違いが生まれるのか考える。
- 価値観をどのように受け入れるのかを考える。

◎Going Further - (Reflection)

- 価値観の違いをどのように生かして生活しているのか、例を出してみる。
- 自分のことを理解していなかったらどのようなことが起きてしまうのかシミュレーションする。
- 最初と比べてどれだけ自分を理解できているか振り返る。

◎Action

- 自立について考える。
- 自分の価値観を生かしてできることをリストに書き出し、1週間の行動計画を立てる。
- 実際に実施し、振り返りを行う。将来の夢について作文を書く。



児童のエージェンシー（agency）を後押しする

- ・ワークシートにはベースとなる項目を書いておくが、自由にトピックを決められるような部分も作っておく。
- ・インタビューの質問については、完全に児童に任せられるように、何を知りたいのか明確にさせてから質問づくりを行うようにする。
- ・価値観を最大限自覚できるようにする。



教師による問いと児童による問い

T：自分のことを理解できているかな？

S：なんで人と違うところがあるのかな。

T:どんな価値観があるのかな？
T:人のために何かしていることはあるかな？

S:本当に自分はそう思っているのかな？
S:みんなから見た自分はどんな人かな？
S:自立って何だろう？
S:自分は自立しているのかな？

継続的な評価

- ・ワークシート（コメントでフィードバックする）
- ・ベン図（類似・相違が分けられているか）
- ・インタビュー項目（知りたいことが妥当か、知りたいことを知れるような質問になっているか）
- ・インタビュー（教科書のポイントが抑えられているか）
- ・記述（自己理解・他己理解、価値観、自立に気付くような内容を書くことができるか）

リソースを柔軟に活用する

・各教科の教科書 ・保護者 ・学校職員 ・スクールカウンセラー ・地域の人 ・図書館 ・国ごとの本（世界の歩き方など） ・保健室 ・病院 ・MBTIテスト ・プロフィール帳

児童による自己評価と児童同士のフィードバック

- ・ワークシート（お互いに見せあい、他己評価する）
- ・毎回の振り返り（授業で気付いたことを書かせる）
- ・話し合い（必ず2人以上と話せるように時間を取る）

全教師共通の継続的な振り返り

- ・自分の価値観についてのワークシートにおいて、自由にトピックを決められるところを作ったが、あまりにも児童によって異なりすぎて比較することが難しくなってしまった。グループで決められるようにデザインした方が良かった。
- ・インタビューをしてデータは集まってきている。聞いた人数は少なかったが、質的なデータとして良いものができている。

教科に特化した振り返り

国語：『地域のみりよくを伝えよう』※新編 新しい国語 五（東京書籍, 2024）→自分の魅力を伝える文章を書かせる。
道徳：『泣いた赤鬼』『見えた答案』『どうすればいいんだ』『駅前広場は自転車置き場？』※新編 新しい道徳 5（東京書籍, 2024）
保健体育：『体ほぐしの運動』『表現』『心の健康』※新編 新しい保健 5・6（東京書籍, 2024）
上記のものも付け加えることができた。

プロンプト：設計と実践



興味をかき立てる学習体験を設計する

どのような体験が学習を促すか。

具体的にはどの学習においても以下のようにする：

- 知識の習得や概念的理解を後押しする問いや刺激材料、学習体験を考案する。
- 児童が「学習のアプローチ」や「IBの学習者像」の人物像を身につけそれを発揮するための実践的な機会を設ける。
- 児童の関心、探究、変化していく考え、行動に柔軟性をもって対応する。
- 多言語を使用できるように複数の言語を対等に扱う。
- 単独での学習と協働学習、指導やスキャフォールディングを伴う学習、および発展学習のための機会にはどのようなものがあるかを見極める。



児童のエージェンシーを後押しする

学習と指導において、児童のエージェンシーをどのように把握し後押しするか。

具体的にはどの学習においても以下のようにする：

- 児童が自らの学習に主体性をもって取り組むと同時に、その内容を教師と一緒に組み立てることができるようにする。
- 児童が学習を自ら管理、調整できるように、学習を計画し、振り返り、評価する能力を養う。
- 児童主導の探究や行動を後押しする。



問い

教師による問い

児童の考えが変化するのに伴って新たに見出される教師による問いや刺激材料にはどのようなものがあるか。

児童による問い

児童の考えが変化するのに伴って新たに生じる児童による問いにはどのようなものがあるか。



継続的な評価

児童の新たな知識、概念的理解、スキルについて、どのようなエビデンスを得るのか。

学習目標と成功規準に照らして学習のモニタリングや記録を行うにはどうすればよいか。

計画、および児童のグループ分けやグループ替えに、継続的な評価をどう活用するか。



リソースを柔軟に活用する

リソースによって、学習の価値や意義はどのように高まるか。

具体的にはどの学習においても以下のようにする：

- 学習を強化したり、発展させたりできるよう、学習コミュニティの内外にあるリソースを熟慮したうえで使用する。リソースには場合により、時間、人、場所、テクノロジー、学習空間、物理的な教材なども含まれる。



児童による自己評価と児童同士のフィードバック

教師によるフィードバックや児童同士によるフィードバックを児童が受け取るための機会にはどのようなものがあるか。

児童は、学習を自ら評価し調整できるようになるために、フィードバックにどう取り組むのか。



継続的な振り返り

全教師共通

- 探究全般を通じて、新たに生まれる児童による問いや児童の考え、探究、関心にどう対応するか。
- 探究全般を通じて、児童主導による行動の機会をどう手助けするか。
- 学習を実用的で目的あるものにし、実生活での課題や機会に結びつくようにするにはどうすればよいか。
- 学習、健康、心身の健やかさの土台となる家庭、家族、学校の間のあるべき関係をどのように育むか。



教科に特化した振り返り

POIの中、もしくはそれ以外において：

- 児童が、中心的アイデアと、探究の流れやPOIとのつながりを見出すための機会にはどのようなものがあるか。
- 児童が知識を習得し、概念的理解を深め、スキルを身につけることで、さまざまな教科をまたぎ、行き来し、融合した学習を転移できるようにするための機会にはどのようなものがあるか。

振り返り

教科の枠をこえたテーマ／中心的アイデア： Who We Are 私たちは誰なのか /それぞれの価値観の理解が私たちの自立を助ける。

協働指導チーム： A, B, C, 音楽専科、図書司書

学年／年次：5学年

日付: 4月～6月

教師による振り返り

A：中心的アイデアは「それぞれの価値観の理解が私たちの自立を助ける」だったが、価値観を理解する部分が少し薄くなってしまったように感じる。価値観の理解なので、価値観を受け入れて今後どのように行動していきたいのかについて作文や発表させると、より子どもたちは「価値観の理解」という側面に気付くことができたのではないだろうか。

B：2組では子どもたちが学習したことを生かそうとする姿勢がこれまで以上に見られた。棒グラフでまとめることを想定していたが、「円グラフでまとめたい」ということだったので円グラフに変更した。円グラフの書き方と分析の仕方を教え始める子もおり、協働できていたように感じる。

音楽専科：子どもたちの価値観ということだったので、「好きな歌発表会」ができた。できれば保護者や地域の方も呼べれば良かったと思うので、来年度はぜひ呼んでも良いと思う。そんな中でも他の学年の児童を招待できたのは良かった。

図書司書：価値観についての本はあまり蔵書されておらず、探すのが難しいと感じた。本の充実度は発展中であるため、市の図書館への視察などもしていきたい。また、図書館での貸出サービスもあるので、そちらに依頼するのも新たな視点で良いかもしれない。

C：サポートで入っていたが、どの子もよく考えられていたと思う。5年生としては少し難しいのかと思うが、先生方の足場掛けがうまく働いていたのではないかと感じました。音楽専科の先生も入ってくださって、学びが深まっているようだったので、他の専科の先生もどんどん巻き込んでいきたい。ただミーティングをいつどのように行うことができるのかは課題かもしれません。

児童による振り返り

- おおむねの児童が自立について話すことができる一方、自己理解と他己理解については気付きが少ないようだった。
- 学習したことをすぐに使おうとする姿勢が身についていた。教え合いも自然に始まっており、非常にOpen-mindedだった。
- 価値観について、音楽でも考えることで考えに広がりが出た子がいた。
- 価値観についての本があまりないため、占いや血液型ごとの特徴をまとめた本に手を伸ばす子が多かった。

評価の振り返り

- 自立について、子どもたちなりの定義にABC評価をつけるのは難しい。したがって、ABC評価ではなく、コメントによる評価を行うことで自己有用感につなげていきたいと感じた。
- ワークシートに教師からコメントでフィードバックするのは、子どもたちにとっては「交換日記のようで楽しい」ということだった。来年度も効果的かもしれない。
- インタビュー項目やインタビューの仕方についての評価は、探究としても教科としても同時にできるようなデザインにできたのは良かった。教科での学びと探究での学びが相互に影響しあっているような感じが良い。
- 毎回、ノートに振り返りを書かせたのは初めのころは良かった。何回も同じことをやっているため、最後の方は同じようなことをただ写しているだけのような感じだった。来年度は、振り返りの回数を減らすか、振り返りの仕方を考えた方が良い。

プロンプト：振り返り

教師による振り返り

単元全体を通して適用した方策は、児童が中心的アイデアの理解を深めることや、そのエビデンスを示すことにどう役立ったか。

児童が「IBの学習者像」の人物像や「学習のアプローチ」を身につけ、それを発揮するのに最も役立った学習体験はどのようなものだったか。

さまざまな教科をまたぎ、行き来し、融合する形で学習した内容を転移できるようになるために、児童が知識を習得し、概念的理解を深め、スキルを身につけていることを示すエビデンスにはどのようなものがあるか。

指導チーム内での協働を通じて、教科の枠をこえたつながりをどの程度強化することができたか。

今後の学習と指導に役立つような学習のプロセスについてどのようなことに気づいたか。

児童による振り返り

新たに見られた児童主導の探究にはどのようなものがあったか。また、それらは探究のプロセスにどう役立ったか。どのような調整を行ったか。また、それによって学習はどのように改善されたか。

UOIにおいて、児童が自分の意見を述べ、自ら選択し、主体性をもつことができるようにするためには、どのような後押しをすればよいか。（例：学習目標と成功規準を教師と一緒に定める、児童主導の探究や行動に取り組む、自己評価や自己管理に取り組む、学習空間を教師と一緒に設計するなど）

これらの経験において、学習に対する児童の考え方が影響を受けたのはどのようなことを通してか。（例：「IBの学習者像」の人物像と「学習のアプローチ」を身につけ、それを発揮すること、中心的アイデアの理解を深めること、学習目標に到達すること、行動することなど）

評価の振り返り

学習のモニタリング、記録、および測定は、児童が学習内容を理解するうえでどの程度効果的に役立てられたか。

児童の知識、概念的理解、スキルについて、どのようなエビデンスが得られたか。

この学習を学習コミュニティとどのように共有するか。

注記